

学校名	東京都立新宿山吹高等学校
-----	--------------

平成30年度スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール 事業計画書

I 委託事業の内容

1 研究開発課題名

「Shinjuku Yamabuki 2020 多様な未来に対応する情報技術者の育成」

昼夜間定時制情報科における単位制・無学年制を活かした情報技術者育成プログラム

2 研究の目的

情報社会は目まぐるしく変化し、技術やサービスが高度化・多様化している。また、IT人材は量的にも質的にも不足し、多様かつ高度な人材の育成が期待されている。

このような状況の中で、昼夜間定時制課程の専門学科「情報科」の生徒に対し、多様で変化の激しい情報社会に対応できる資質・能力を身に付けた情報のプロフェッショナルを育成する。この目的を達成するために、生徒の「使命と情熱」、「確かな技術力」、「問題解決能力」を育成する情報技術者育成プログラムと評価方法を開発し、その普及に努める。

情報技術者育成プログラムでは、次の資質・能力を身に付けた情報のプロフェッショナルを育成する。

① 使命と情熱をもった情報のプロフェッショナル

項目	最高到達目標
ア 職業観	情報技術者の義務と責任を理解し、適切な行動をとることができる
イ 社会性	周囲に対しリーダーシップまたはフォロワーシップを発揮し、問題解決に取り組むことができる
ウ 主体性	自ら積極的に行動し、社会の問題解決に取り組むことができる

② 確かな技術力をもった情報のプロフェッショナル

項目	最高到達目標
エ 知識	高度IT人材となるために必要な応用的知識をもっている
オ 技術	自らの課題に情報技術を応用的に活用することができる

③ 問題解決能力をもった情報のプロフェッショナル

項目	最高到達目標
カ 表現力	自らの課題に対して、情報技術を使つて的確にわかりやすく表現することができる
キ 判断力	広い範囲から多くの問題を見つけ、解決方法を明確にすることができる
ク 思考力	自らの課題に対して、既存の発想にとらわれず新しい解決方法を考えることができる

(1) 情報技術者育成プログラムの実施

本校は、専門教科情報科の全科目を教育課程に設置するとともに、共通教科においても「必修科目」から「数学Ⅲ」、「コミュニケーション英語Ⅲ」等の科目まで幅広く設置している。

また、単位制・無学年制であることで、生徒は自分の希望する進路に従って興味・関心のある科目を自由に履修することができる。

専門教科「情報科」では、先に掲げた育成すべき資質・能力を身に付けた情報のプロフェッショナルを育成する。また、多様で変化の激しい情報社会に対応する授業を実施するための教員研修を行い、各科目の授業を改善するとともに必要な学校設定科目「情報総合実習」を新たに設置し実施する。

また、本事業にむけた学校体制及び研究組織は、機会あるごとに見直していく。

(2) 評価方法の開発

育成すべき資質・能力に沿ってこれらを配置した事業マップと、これに対応した到達度マップを活用し、事業や学年を超えた資質・能力の育成状況を到達度マップに沿って評価する。

また、生徒一人一人の課外活動を含めた学習記録、面接記録、進路希望などを記載した「山吹ポートフォリオ」を作成する。これに基づいて 専門科目及び共通教科・科目の選択を指導することで、社会の要請に対応しつつ、個々の生徒の興味・関心に応じた進路実現を目指す。また、事業ごとに定性的評価と定量的評価を行う。

山吹ポートフォリオに記録された素材の内容を吟味して何をどのように記録し保存するのか、どのように活用するのか検討する。また、教員自身も評価し、教員の授業改善に活かす。

(3) 研究成果の普及

全国専門学科「情報科」研究協議会や全国産業教育フェアでの発表、学校Webサイト等での発信などを通して、研究成果の普及に努める。また、情報科発表会の開催、文化祭での作品展示、活動報告会などの広報活動を行う。

3 実施期間

契約日から平成31年3月15日まで

4 当該年度における実施計画

平成29年度の各科目の学習目標や指導内容が、育成すべき資質・能力に照らし合わせて適切であったか評価表による生徒の自己評価や事前、事後のアンケートに基づき検討する。平成30年度は、そこから改善した指導計画に基づき、授業を行う。また各授業で生徒の育成する能力とその到達度、学ばせる項目を教員全体で共有し、科目間の連携も図る。

なお、指導計画の改善にあたっては大学等と連携し、教育工学、教科教育学、学習環境デザインなどの知見を取り入れる。

(1) 情報技術者育成プログラムの実施

年間を通して、情報技術者育成プログラムにおける「①使命と情熱をもった情報のプロフェッショナル」、「②確かな技術力をもった情報のプロフェッショナル」、「③問題解決能力をもった情報のプロフェッショナル」を育成するために、以下の事業を行う。

① 使命と情熱をもった情報のプロフェッショナルの育成【職業観・社会性・主体性】

ア 事業概要

情報技術者による講演会、企業訪問等を系統的に行い、事前学習、振り返り、グループ協議等を行い、授業内容とも関連させて、継続して職業観、倫理観を高める。また、地域と連携した活動、発表会の運営などの活動に参加させ、段階的に社会性を高めさせる。

大学教授等による講演会、課題研究発表会への参加、発表を行わせるとともに、外部の大会、全国大会への参加、より高度な資格試験、海外留学等への挑戦を奨励し、段階的に生徒の主体性を高める。

イ 事業目的

○職業人として目指すべき将来のイメージをもたせる

情報技術者による講演会を行い、情報技術者の仕事内容を知る。また、「女性も男性も、共に活躍する情報社会」をイメージできるようにする。

○教室内の学びと社会の関連性を実感させる

ICT関連企業や大学等と連携し、講演会や企業訪問、研究室訪問を通じて「最先端の情報技術」と「生徒が学校で学ぶ情報技術」とのつながりを実感させる。

○リーダーシップやフォロワーシップを高め、他と協力して目標を達成する力を養う

学校で主催する情報科発表会の運営を担当する。また、学校で主催する地域向け講座の講師役やアシスタント役の立場で運営に携わる。

○自分の学びの価値を知り、これを人に伝える意欲を高める

情報科発表会や全国専門学科「情報科」研究協議会に参加して発表し、質疑・応答、意見交換を行うとともに学識経験者等に助言してもらう。

ウ 専門教科「情報科」の授業での取組

○「情報産業と社会」

情報産業に携わる技術者による「情報産業における職業」を題材とした講演会等を行い、職業観と情報のプロフェッショナルとしての心構えを意識させる。また、「大学での学び」を知ること、「高校での主体的な学び」の大切について理解させるような講演会を行う。

エ その他の取組

大学教授等による講演会、情報科発表会への参加、発表を行わせるとともに、外部の大会、全国大会への参加、より高度な資格試験、海外留学等への挑戦を奨励し、段階的に生徒の主体性を高めさせる。

○「情報科発表会 (Informatics Presentation) 」

情報科で積極的に取り組んでいる生徒に発表の場を与え、自分の学びの価値を知り、学びを深める。これを人に伝える意欲を高める大切さを知る。また、普通科の生徒も含め在校生を情報科発表会へ参加させ、主体的に取り組む学びの方向性や手法・着想のイメージをもたせる。

○「人間と社会 (全都立高校で実施している人間としての在り方・生き方に関する教科) 」

「人間と社会」において、企業訪問として大手印刷会社のショールームを見学し、身近な生活のなかで情報技術が活用されていることを意識させる。

○「総合的な学習の時間」

大学の教授や情報技術者による講演会を行い、情報技術者の仕事内容を知る。また、高校で学ぶ内容が社会で役に立つことを知る。

○協調性やコミュニケーション能力を養う

町内会等と連携してボランティア等に参加する。学校で主催する地域向け講座の運営補助をする。

○専門科目の学習に向けた意欲を高める

中学生向けの体験授業の運営補助を行うことで、自らの学びを客観視し、専門教科「情報科」の有用性を確認する。

専門的資格取得の学習会や講習等に参加する。

○自分に足りないものについての学習意欲を高める

校外の大会に参加し、他校の生徒と競うことにより、自分が身に付けたい力を自覚する。

専門的資格試験を受けたり、それに向けた模擬試験を受けたりする。

学校教育の範囲を超えた高い目標をもつ。

全国大会に参加し、他校の生徒と競う。海外に留学する。

オ 連携先

日本アイ・ビー・エム株式会社、大日本印刷株式会社 等

カ 学びの環境作り

校内に SPH 掲示板を設置し、イベントやプロジェクト活動などの告知を行う。また少人数の取り組みでは、ポートフォリオ上でグループを作成し、スマートフォン上で情報共有できるようにする。

② 確かな技術力をもった情報のプロフェッショナルの育成

ア 事業概要

変化の激しい情報産業において、技術やサービスが高度化・多様化するなかで対応できる高度な知識・技術を身に付けさせる。また、現在の知識・技術の学習だけでなく自らの課題に情報技術を応用的に活用できる人材を育成する。そのために、授業や課題研究に最先端の内容を取り入れることを目的とし、企業や大学等の外部人材を活用する。

イ 事業目的

- ・高度 I T 人材を育成するための授業を実施する

I T 関連企業や大学等と連携し、基本的な情報技術と最先端の情報技術を学ぶことにより、応用的な知識・技術を習得させる。

- ・資格試験の学習を促す

資格対策講座を開講するなど、情報技術者としての知識を幅広く深く学習することにより、確かな知識・技術を習得させる。また、学習会の機会を設け、情報技術者にとって必要な自ら学び続けようとする力を身に付けさせる。

- ・情報機器による実習を充実させる

ネットワーク機器やコンピュータ周辺機器を授業内の実習で活用することにより、体験的な学習を通して知識の定着を図る。

ウ 専門教科「情報科」の授業での取組

○「情報産業と社会」

情報機器や周辺機器等の実機を扱い知識の定着を図る。

○「情報基礎実習」

入学時のスキルの差を明らかにし、これを解消する内容を実施する。

○「ネットワークシステム」

スイッチやルータなどの実習用ネットワーク機器等によるネットワーク実習を実施することにより、ネットワークを理論だけでなく実際の運用を体験的に学ぶ。

○「情報デザイン」

年度の前半は、知識や技術の習得に努める。大学のデザイン関係の教授の特別授業を実施し、デザインについて理論に基づいた捉え方やその実際の作業について学ぶ。後半は、近隣商店会と連携しショッピングカードのデザインをする実習を行う。インタビューなど直接人とやりとりをすることを通して、相手の要望を受け止め、要望に対してどのようにショッピングカードの作成をすればよいかと試行錯誤し、より良いものを作り上げる問題解決能力の育成まで広げる。

エ 連携先

シスコシステムズ合同会社 等

③ 問題解決能力をもった情報のプロフェッショナルの育成

ア 事業概要

問題解決能力の育成を目指した授業改善を行う。

イ 事業目的

- ・思考力、判断力、表現力等を身に付けた問題解決能力。
実習等の各科目で、情報に関する課題を設定し、その課題を解決する力を育成する。
- ・授業や課題研究に最先端の内容を取り入れる
コンテンツ分野についてはアドビシステムズ株式会社、システム分野についてはIT関連企業との連携を予定している。課題研究の指導については、これら企業との連携に加え、大学や専門学校との連携も視野に入れる。

ウ 専門教科「情報科」の授業での取組

○「情報総合実習」

システム系とコンテンツ系を融合した実習科目を実施する。PHPによるプログラミングを活用したWebアプリケーションの開発をペアまたはグループによる実習を通して、協働的に学習し、他者と協働して物事に取り組む方法を身に付ける。

○「情報システム実習」

大学の情報系学部と連携し、アプリ開発の実習を通して、問題解決能力を養う。

○「情報コンテンツ実習」

デザイン業界に携わる方の特別授業など、企業による情報デザインに関する知識と技術を習得させることを目的とした授業を行い、楽しくデザインするだけでなく、コストの問題を意識させるなどプロフェッショナルとしてのデザイン方法について意識させる。また、デザイン関係の大学と連携しアイデアから作品制作までのプロセス法を学び、課題制作に活かす。

また、AR アプリを活用し、近隣商店会と連携して地元の観光案内を目的としたARコンテンツを制作する。文化祭を題材として学校をデザインすること、学校案内等のコンテンツ制作を行う。

○「課題研究」

東京電機大学と連携して、研究の手順、方法を学ぶとともに研究内容について助言を頂き課題研究の内容を深化させる。

企業と連携し、企業の方からの助言をもとに、研究テーマの設定、研究の手順、方法を生徒に考えさせるなど、問題解決の新たな解決方法の思考力を育む。

エ 「共通教科」等での取組

文化祭における販売券の在庫管理システムの開発・運用を行うことで、実際の情報システムの開発工程の中で重要な運用・保守について情報科と普通科の生徒が協働的に学ぶ。

オ 連携先

東京電機大学 デジタルハリウッド大学 アドビシステムズ株式会社 日本マイクロソフト株式会社 等

④ SPH 事業の効果的実施に向けた教員の素質・能力の向上

- ・ 専門教科・共通教科相互の授業見学（授業見学シートの共有化・関連科目の見学）
- ・ 専門教科教員の共通教科についての理解向上（学習指導要領解説や教科書の参照）
- ・ 共通教科教員の専門教科についての理解向上（学習指導要領解説や教科書の参照）
- ・ SPH先進校への視察（大学や企業、行政機関との連携、職業倫理についての評価規準、システム分野の取組、評価方法など）
- ・ 全国産業教育フェア（山口大会）への参加（含む生徒引率）
（SPH発表会を通じた他校の情報の収集、AIプログラミングコンテスト、作品・研究発表への参加）
- ・ 全国専門学科「情報科」研究協議会（福岡）への参加（含む生徒引率）
（他校の実践、連携等の収集、生徒発表）
- ・ 全国高等学校情報教育研究会全国大会への参加
（共通教科情報科での実践を収集）
- ・ プログラミング指導及びコンテンツ制作等に係る教員研修
（企業及び大学等の専門家を学校に招いて研修を実施する）

⑤ SPH 事業の効果的実施に向けた高度な学習環境の整備

- ・ 環境整備に当たり、大学と連携して学習環境デザイン、教育工学などの知見の活用
- ・ 「課題研究」の高度化を目指した最新の機能をもつノートパソコンの活用
（ゲーム制作での活用、用途に応じたソフトウェアのインストール、地域連携での活用）
- ・ 「課題研究」「情報総合実習」「情報システム実習」「情報コンテンツ実習」での最新の機能をもつソフトウェアの活用
- ・ 「情報デザイン」、「表現メディアの編集と表現α」、「情報コンテンツ実習」の内容充実のためのペンタブレットとソフトウェアの活用
- ・ コンテンツ分野の授業を高度化するためのプロジェクタ、大判プリンタの活用

(2) 評価方法の開発

① 事業マップと到達度マップの再構成

- ・前年度の事業実施に際して、SPH事業に適合するように、4月から6月にかけて文言の修正や科目再配置を行う。

② 評価実施に向けて

- ・科目及び事業ごとに、育成すべき能力（主観点・副観点）と到達目標レベルを定め、教員間で共通理解を図るとともに、生徒にも明示し、一つの科目や事業について同じ方向に向かうようにする。

③ 到達度マップによる科目や事業での評価の実施

- ・各科目では、生徒一人一人に授業の振り返りを行わせ、作品等の成果物とともにeポートフォリオに記録させる。事業や科目を超えた資質・能力の育成状況を到達度マップに沿って評価する。年間で4回（6月、9月、12月、3月）の評価測定を行う。生徒による自己評価、生徒同士の相互評価、教員による評価と指導を面談の機会を通じて行い、生徒の変容を評価する。評価は、全体の評価に加え、科目で測った評価も併せて分析する。

○定性的評価

山吹ポートフォリオを活用して事前学習・事後学習で作成させたレポートや振り返りの自由記述から評価する。

○定量的評価

評価表による生徒の自己評価を行う。また、教師による評価・指導を通じて生徒の変容を評価する。事業ごとに設定した主観点・副観点による評価を行い事業の目的達成を評価するために、各事業について共通評価を導入し、効果の比較を行う。

○補足（資格試験等の位置付け）

資格試験等については、専門科目の授業内容の確実な定着を目指して主体的に各種検定試験、資格試験等に挑戦させる。生徒に取得を奨励する資格については、生徒の現状、情報産業の動向等に配慮し、毎年見直す。

④ 山吹ポートフォリオの活用

- ・生徒一人一人の学習記録、面接記録、進路希望等を記録し、生徒と教員間で共有する。
- ・山吹ポートフォリオを活用して、生徒が目指す情報技術者に向けた履修指導、学習指導、進路指導を行う。
- ・生徒がどのような学習をし、どのような力を身に付けることができたかを確認するとともにこれから付けたい知識や能力を考えさせる。後に閲覧することができ、次年度の履修や主体的な学びにつなげる。

(3) 研究成果の普及

① 事業の実施報告

- ・学校 Web ページのメインメニューに SPH のリンクを作り、事業実施日に概要を掲載する。
- ・教師の名刺には「SPH 指定校」を明記し、リンク先 QR コードなどを記載する。
- ・学校が外部に出す印刷物にも同様に記載する。

② SPH の成果

SPH の研究成果の普及については以下の方法で行う。

○研究会・全国大会等

- ・全国専門学科「情報科」研究協議会（福岡）
⇒専門学科をもつ高校への発信
- ・全国産業教育フェア（山口）
⇒専門学科をもつ高校への発信
- ・全国高等学校情報教育研究会全国大会（秋田）
⇒全国の高校の情報科担当者に向けた発信
- ・文化祭での学習成果発表（プレゼンテーション）
⇒中学生、保護者等の来場者に向けた発信

③ 教材

- ・学校 Web ページで発信するとともに、専門学科で協働して運用するサーバに保存する。
※同サーバは全国専門学科「情報科」高等学校長会が設置する。

④ 研究内容

- ・年度ごとに研究実施報告書を作成し、専門学科「情報科」をもつ高校及び関係機関に送付する。同報告書を PDF 化したものは、学校 Web サイト等でもダウンロードできるようにする。

⑤ 広報活動

- ・課題研究発表会や文化祭を外部に公開し、地域の方、企業、専門学校等にも案内する。
（案内に SPH について記載し、SPH についてプレゼンテーションや展示を行う。）
- ・学校案内に SPH の成果を記載するとともに、中学校訪問等においても積極的に広報する。

⑥ SPH 通信

SPH の活動内容を「SPH 通信」として月 1 回発行する。発行形態は、紙に印刷しての配布、及び PDF 化して Web サイトで発信するものとする。

5 実施体制

(1) 研究担当者

氏名	職名	役割分担・担当教科
	主任教諭	S P H研究主任・情報科教員
	教諭	S P H研究副主任・情報科教員
	主任教諭	情報科教員・情報科主任
	主幹教諭	情報科教員・情報科2部主任
	主任教諭	情報科教員
	教諭	情報科教員
	教諭	情報科教員
	教諭	情報科教員
	教諭	情報科教員
	教諭	情報科教員
	実習助手	情報科教員

(2) 研究推進委員会

氏名	所属・職名	役割分担・専門分野等
	統括校長	総括
	副校長(定時制)	総括補佐(研究内容・渉外)
	副校長(定時制)	総括補佐(研究内容・渉外)
	副校長(通信制)	総括補佐(研究内容・渉外)
	経営企画室長	総括補佐(経理等)
	主事	経理主担当
	主任教諭	S P H研究主任・情報科教員
	教諭	S P H研究副主任・情報科教員
	主幹教諭	ホーム部主任
	主幹教諭	教務主任
	主幹教諭	生活指導主任
	主幹教諭	進路指導主任
	主幹教諭	相談室主任
	主幹教諭	保健主任
	主幹教諭	庶務主任
	主幹教諭	情報科2部主任

本校教職員による研究推進委員会は、月1回金曜日15:10～開催し、研究の進捗状況の把握、支援、助言を行う。なお、企画調整会議、職員会議にて、研究推進状況を報告し、必要な助言を得る。

事業実施区分別責任担当者

事業内容		担当	
全体計画	事業計画書		
	物品管理、予算執行・予算策定（とりまとめ）		
	事業マップ		
	運営指導委員会事務局		
カリキュラム・評価方法の開発	カリキュラムの改善	カリキュラムの作成	
		履修モデルの作成	
	学校設定科目の設計・各科目の実施の振り返り 7月、12月		
	評価の改善	到達度マップ	
		事業別（科目別）評価表	
	授業見学・共通教科の科目と専門科目の理解向上（教科書展示）		
	先進校視察（柏の葉高等学校、京都すばる高等学校）		
	教員研修（カリキュラム、デザイン、プログラミング）		
多様な未来に対応する情報技術者の育成	生徒状況管理（山吹ポートフォリオ）の進行		
	情報産業と社会（企業・大学等の特別授業）		
	情報デザイン（大学教授の特別授業 5月・11月・1月）		
	情報コンテンツ（企業の講演会 10月・AR活用）		
	ネットワークシステム（ネットワーク機器等を活用した実習）		
	情報システム実習（アプリ制作）		
	情報総合実習		
	課題研究（教科全体のマネジメント・大学との連携）		
	総合的な学習の時間（企業人による講演会・パネルディスカッション）		
	教科「人間と社会」（企業訪問・中学生向け講座）		
	文化祭でのプレゼンテーション		
	ビジネスプランコンテストエントリー		
	パソコン甲子園エントリー		
	情報科発表会（3月）		
資格対策			
研究成果の普及	全国高等学校情報教育研究会全国大会（8月）		
	全国専門学科「情報科」研究協議会（8月）		
	全国産業教育フェア（10月）		
	SPH通信（Webページ）進行管理		
	教材・作品の展示と発信		
	研究実施報告書		
	SPH アンケート		

(3) 校内における体制図

氏名	職名	役割分担・専門分野等
永井 克昇	千葉商科大学商経学部教授	情報科教育学
中橋 雄	武蔵大学社会学部メディア社会学科教授	メディアリテラシー論 教育工学
渡辺 雄貴	東京理科大学教育支援機構 教職教育センター准教授	インストラクショナルデザイン 教育工学、学習環境デザイン
楠藤 倫太郎	アドビシステムズ株式会社 デジタルメディア ビジネス本部 教育市場営業本部	コンテンツ教育
原田 英典	日本マイクロソフト株式会社 パブリックセクター統括本部 文教本部	プログラミング教育
南 和男	東京都東部学校経営支援センター学校経営支援担当課長	関係行政機関の職員
井上 隆	東京都教育庁指導部主任指導主事	学校教育に専門的知識を有する者

管理機関となる東京都教育委員会は、専門的見地から指導・助言及び評価に当たるため、学校教育に専門的知識を有する者、学識経験者、企業等の技術・技術者、関係行政機関の職員等で組織する運営指導委員会を設置する。平成30年度運営指導委員会は2回（7月・12月）開催する予定である。その他、スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール発表会、各企業や地域団体への報告会、文化祭や中学生体験入学等において、研究成果や研究報告を行うとともに、Webページ上にその成果を掲載し、情報発信に努める。

6 研究内容別実施時期（※実施時期は事業計画書提出時のものであり、実際の事業着手は契約締結後とする。）

研究内容	実施時期											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
情報技術者の育成												
情報産業と社会				◇			◇					
情報デザイン		○						○		○		
ネットワークシステム						▽	ネットワーク機器等を活用した実習					
情報システム実習				○			アプリ制作					
情報コンテンツ実習	名刺		マチアルキ			文化祭 ポスター	学校をデザインする			学校案内ポスター		
情報総合実習			◇				◇					
課題研究の高度化						○				△		
総合的な学習の時間				◇			◇					◇
人間と社会					△							
全国専門学科「情報科」 研究協議会発表等			準備	準備	本番 △							
産業教育フェア発表等					準備	準備	本番 △					
文化祭での発表等							準備	準備	本番			
情報科発表会										準備	準備	本番
資格取得プロジェクト	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎

○：大学教授等特別授業 ◇：企業人による特別授業 △：外部機関・企業等訪問

研究内容	実施時期											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
カリキュラム及び 評価方法の設計開発												
生徒の自己評価 (ポートフォリオ活用)	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○
生徒の相互評価 (ポートフォリオ活用)			○			○			○			○
教員と生徒の面談指導 (ポートフォリオ活用)			○			○			○			○
教員研修	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
学習環境の整備		○			○							
カリキュラム・指導計画の 改善	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
科目・事業の主観点副観点 ・育成レベル検討	○	○	○			○			○			○
事業マップ・到達度マップ の修正	○	○	○									
研究成果の普及	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
Web ページでの発信	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
校内での作品展示	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
S P H通信の発行	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
広報活動（都教委）				○					○		○	
研究実施報告書									○	○	○	○
生徒の発表					◎		◎		◎			◎
教員の発表					◎							

7 この事業に関連して補助金等を受けた実績

補助金等の名称	交付者	交付額	交付年度	業務項目

8 知的財産権の帰属

- () 1. 知的財産権は受託者に帰属することを希望する。
(○) 2. 知的財産権は全て文部科学省に譲渡する。

9 再委託に関する事項

再委託業務の有無 有・無

II 委託事業経費

別紙1に記載

III 事業連絡窓口等

別紙2に記載